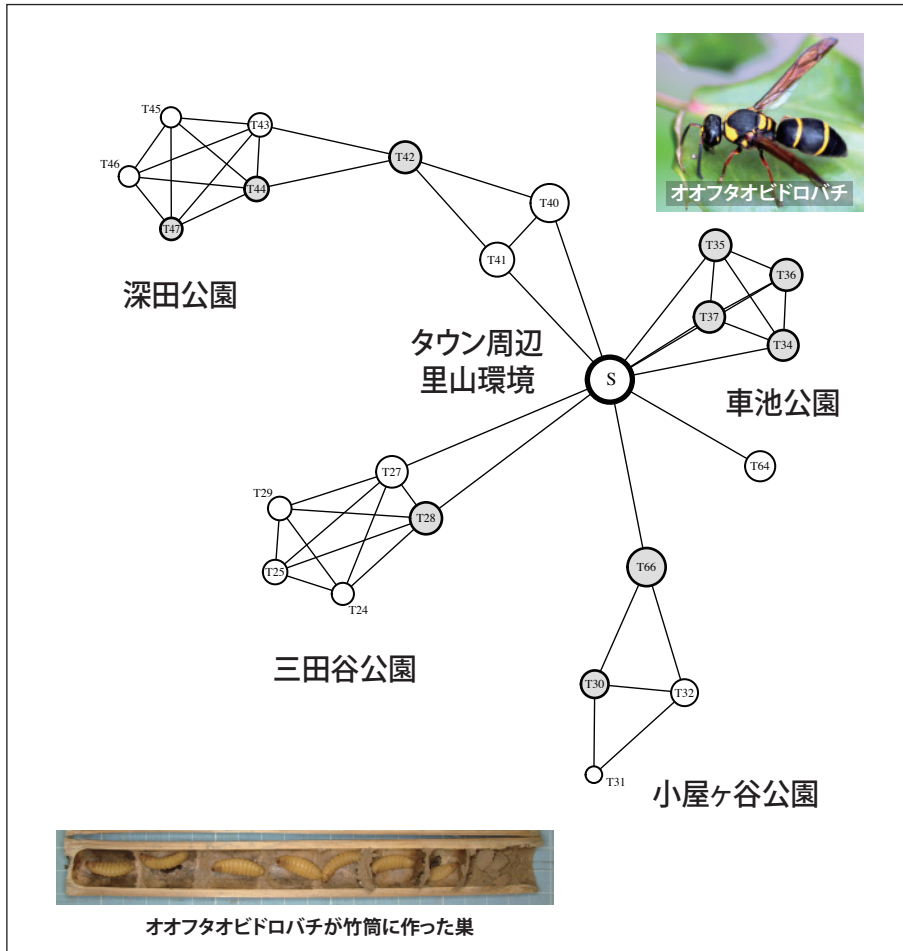


# 虫の目で探る里山環境プロジェクト

## -竹筒トラップを用いた管住性ハチ類の多様性生物学研究



オオフトアオビの営巣移動距離をもとに、フラワータウン内残存林の繋がりをネットワーク分析した結果、ハチの目で見れば、造成によってタウン内緑地は周辺の里山環境と辛うじて繋がってはいるが、個々は分断され、営巣効率の低下をもたらす環境になっていることが分かる。

管住性ハチ類は里地の竹垣や藁葺などに使われる筒を営巣場所として、里山林を幼虫の餌や巣材の採集場所とする典型的な里山昆虫です。竹筒を束ねたトラップにも巣作りするので、トラップに誘引されたハチ類の多様性から設置地点の里山環境を評価できます。さらに、幼虫の数なども調べられるので、繁殖に良好な里山環境が保全されているのか、環境の劣化が進行しているのかを定量的に把握すること

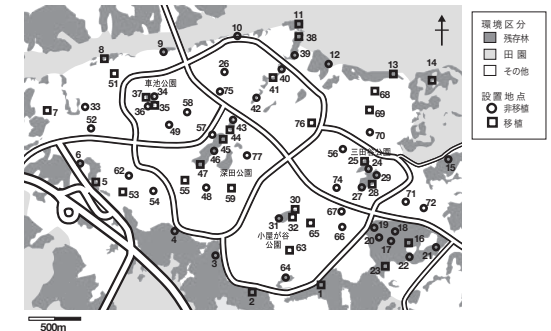


竹筒と葦を束ねた竹筒トラップ。ハチ類が誘引され、営巣する。

もできます。竹筒トラップを用いて、断片化した里山林の環境評価や、断片化が昆虫類多様性に与える影響を、もう20年近く研究しています。

### 発表論文

- 橋本佳明・遠藤知二 (1994) 人と自然, 4, 63-70
- 橋本佳明・遠藤知二 (1996) 人と自然, 7, 65-71
- 橋本佳明他 (2011) 人と自然, 7, 65-71
- 橋本佳明・遠藤知二 (2014) 人と自然, 25, 75-83.
- 橋本佳明・遠藤知二 (2016) 人と自然, 26, (印刷中)
- その他



博物館のあるフラワータウンの 77 箇所に竹筒トラップを 2 年連続して設置



### 虫の目で探る里山環境プロジェクト

代表者：橋本佳明

協力者：遠藤知二（神戸女学院大）

財源：三田市助成、ひとはく総合共同研究 他